

## オーディオ実験室収載

### ZANDEN Model 120 の活用(26) －JBL4360A における試聴(2)－

#### 1. 始めに

JBL4350A の再構成(1)において不調アンプを交換し、前報(25)において JBL4350A のおおよその調整もできました。引き続き JBL4350A のシステムにおいて ZANDEN Model 120 の試聴を行います。

#### 2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、前報(25)と同様、下記のとおりとします。

LP-12→(フォノケーブル)→AACU-1000→Model120(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランス／バランス変換ケーブル)→P&G フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子)→位相反転ケーブル→(バランス／アンバランス変換プラグ：2番ホット)→(アンバランスケーブル)→アキュフェーズ F-15 チャンネルデバイダー→マルチアンプ駆動系

なお、クロスチェックの意味で、カートリッジは、ZYX R100-EX とし、接続に関しては、前報(25)にならって下記も使用します。

Garrad401→(フォノケーブル)→Stage1030(アンバランス入力端子→アンバランス出力端子)→AACU-1000→(RCA ケーブル)→Leak Point1(アンバランス出力端子)→(RCA ケーブル)→Brooklyn DAC+(アンバランスライン入力→バランス出力端子)→(バランスケーブル)→P&G フェーダー(バランス入力端子→バランス出力端子)→位相反転ケーブル→(バランス／アンバランス変換プラグ：2番ホット)→(アンバランスケーブル)→アキュフェーズ F-15 チャンネルデバイダー→マルチアンプ駆動系

音源としては、前報(24)までの得られた情報から逆相と思われる盤を選んで聴いていきます。

#### Angel AA 9117・C (東芝 EMI)

ゲオルグ・フリードリッヒ・ヘンデル メサイア  
オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

#### Sharlin PA-1116 (TRIO)

ベートーベン ピアノソナタ 31番 32番  
エリック・ハイドシェック

#### ARCHIV 28MA 0020(日本ポリドール)

J.S.Bach チェンバロと弦楽の協奏曲  
トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート  
LONDON SOL 1003-4(キングレコード)  
アントン・ブルックナー 交響曲4番変ホ長調  
カール・ベーム指揮ウイーンフィル  
LONDON(ポリドール) L18C 5001  
グスターヴ・ホルスト 組曲《惑星》  
ズービン・メータ指揮 ロスアンゼルスフィルハーモニー管弦楽団

### 3. Model 120 設定条件の試聴結果

RIAA の正相からスタートして、種々切り替えて聴いていき、良さそうなところで、第4時定数も決めていきます。

また、要時、FAL と切り替え、相互に齟齬がないことを確認しつつ、チャンネルデバイダーF-15 のレベル合わせも実施し、必要に応じて Garrad401 でも位相の確認をします。

Angel AA 9117・C (東芝 EMI) のヘンデルのメサイアは、ZANDEN Model 120 の導入(4)では、EMI の逆相、第4時定数は Low になっています。JBL4350A で、こういう大編成の曲の最適条件を見つけるのは困難であり、四苦八苦していましたが、FAL の条件に倣って EMI の逆相、第4時定数は Low に設定すると、なるほどという再生になりました。しかし、高域が勝ちすぎるので、グリルを外してみたところ、ホーンの音響レンズが外れていましたのでセットしなおし、再び F-15 のレベル合わせを 0.5dB 刻みで調整しました。しかしながら、弦の滑らかさや艶が不足していますので、スーパーツイーターの結線を点検したところ、結線が外れていましたので修復し、さらにスーパーツイーターのレベル合わせを行い、なんとかこれでいいのではないかと思われるところまできました。

Sharlin PA-1116 (TRIO) のベートーベンのピアノソナタ 31番 32番は、ZANDEN Model 120 の活用(5)では、EMI の逆相の第4時定数が Mid になっています。この条件で、スタンウェイの豪快な低域と打鍵の表現が何とか出るようになりましたが、打鍵の鋭さは第4時定数を High にしてもいいのではないかという感じです。

ARCHIV 28MA 0020(日本ポリドール)の Bach のチェンバロと弦楽の協奏曲は、ZANDEN Model 120 の活用(8)では、TELDEC の逆相の第4時定数が High になっています。TELDEC の逆相の第4時定数が High の設定から、試みに正相にしてみると、やはり定位が曖昧になり、構成が複雑なシステムでもなんとか位相の判定は可能です。また、Garrad401 でも聴いてみましたが、Brooklyn DAC+で位相反転をした方の定位がよくなります。これまでの調整でかなりのところまでできていますが、こういった繊細な曲の再現には、さらに手立てが必要なようです。

LONDON SOL 1003-4 (キングレコード) のブルックナーの交響曲 4 番は、ZANDEN Model 120 の活用(18)では、TELDEC の逆相の第 4 時定数が High になっています。TELDEC の逆相の第 4 時定数で、かなりのところバランスが取れてきていますは、ピアニッシモの表現は今一つで、別の手立てが必要なようです。LONDON(ポリドール) L18C 5001 のホルストの惑星は、音源の位相チェック実験(17)では、TELDEC の逆相の High になっています。TELDEC の逆相の第 4 時定数で、かなりのところバランスが取れており、このような金管と打楽器が活躍する曲は JBL4350A のシステムに向いています。

#### 4. まとめ

初步的なミスの修復とチャンネルデバイダーのレベル合わせをしながら、イコライザーカーブと位相の確認を行うという経過になりましたが、FAL C90EXW でイコライザーカーブと正相の確認ができる盤で JBL4350A でも同様の確認が取れました。マルチアンプシステムのため判断しにくい場合でも FAL C90EXW との突き合わせができます。

以上